



第14号 2012年8月24日発行
五ヶ瀬川の壘堤を守る会

早いもので東日本大震災から1年半になろうとし、少しずつではありますが復興の兆しが見えてきています。しかし、いまだに福島原発で被災された方々は地元へ帰れない、先が見えない状況が続いております。

また、国会においては、社会保障と税の一体改革に関する法案で与野党間の激しい駆け引きが行われています。国民の利益にかなう決断をして頂きたいと切に願っています。

このような情勢の中、ロンドンオリンピックが7月27

日から8月12日まで開催されました。2014の国と地域から約1万1千人が参加されたとの報道がなされております。

その一人一人が国の代表であり、その責任の重圧は大変なものがあったでしょう。しかし、持てる技を全力で競う選手を見ているとパワーをもらえるし元気が出てきます。毎日の寝不足も気にならない状況でした。



“光り輝く”皆さんとの記念撮影に笑顔で応じる松田選手と久世コーチ（16日の凱旋祝賀会で）

松田選手に感じた“延岡”の心

その中でも地元の松田丈志選手が主将をつとめた競泳陣の活躍には、男女とも、目を見張るものがありました。

松田選手は、競泳男子バタフライ二〇〇メートルを1分53秒21でゴールしました。わずかなタッチの差で銅メダルになりましたが、思わず両手を握りしめ家族でもないのに涙いたしました。また、松田選手は男子四〇〇メートルレーリ

レーにも参加し銀メダルを獲得しました。この競技での銀メダルは、日本競泳史上初のことです。

彼は「苦しかったが、ここまで応援してくださった皆さんの方の気持ちに乗せて泳ぎました。本当に多くの方々に支えられた銅メダルだったと思います」とコメントしています。実に謙虚な言葉です。

昔方財の皆さんは、自分たちの地域が孤立することを承知の上で「毛なし浜」を切り、町の人々を救いました。このような、お互いの絆を大切にふる風土を後世に伝えたいと「五ヶ瀬川の壘堤を守る会」は活動しています。

今年は、「市民まちづくり活動支援事業」の補助金を申請し、いただくことができました。これで「映像による五ヶ瀬川防災コミュニティ啓発促進事業」を実施することができ

は、帰郷の度に、あの東海のビニールハウスポールで練習を行い、後輩たちに指導しています。そうした彼の人間性に魅かれた方々もたくさんいらっしゃると思います。これも昔から延岡人が持つている他人を思いやり、助け合い支え合う心を引き継いでいるからだと思

います。皆さまこれからも一緒に活動していただきますようお願いいたします。

会長 木原 万里子

ごみ拾いをしながら歩く会員



水門跡で説明する黒木民雄役員



川風を受けながらごみ拾い

北町から隔流堤まで往復

五ヶ瀬川の豊堤を守る会は4月28日、「豊堤ミニウォーク&ごみ拾い」を行い、10人が参加しました。

守る会の会員といっても、豊堤がどんなふうに残っているかをきちんと知っている人はほとんどいません。これはいけません。豊堤の様子を確認するとともに豊堤のある景色を楽しみながら守る活動をしていきたいと思います、初めて企画しました。

午前10時30分に延岡市東本小路の市民協働まちづくりセンターに集合。北町の豊堤ミニメント前から豊堤沿いに歩いた後、川岸に降りて、板田橋南詰めの橋の下、五ヶ瀬橋南詰めの橋の下を歩き、再び堤防に登って、須崎町の船倉街区公園をすすめて、延岡大橋の下をくぐり、昨年3月に完成されたばかりの隔流堤の上を歩いて、方財町の鷺(さぎ)島橋の手前で折り

楽しかった豊堤ミニウォーク

返しました。

ごみ袋を持ち、落ちていた空き缶やプラスチックごみなどを拾いながらのウォーキングでしたが、川岸から豊堤を眺めることや橋の裏側を見ることはほとんどなく、隔流堤を歩くのも初めての会員ばかりなので、興味津々、楽しみながら歩きました。

また、堤防の水門跡では

大瀬川と五ヶ瀬川の合流点の河原だった船倉地域を埋め立てて、新市街を建設した間野(あいの)寅次郎氏。船倉街区公園に胸像があります



地元会員が「大水が出た時は、消防団がここに枕木のようなものをはめていた」と解説したり、川を見ながら「子供のころはよくラクマエビを取りに来ていた」、板田橋の下では「延岡大空襲の時はここに逃げ込んだ」など、思い出話が弾みました。

川風を頬に感じながらのボランティア活動は心地よく、船倉街区公園の木陰に座り、みんなで食べた弁当は、とてもおいしかったです。

北町〜方財町の往復というと遠そうに感じますが、昼食を含めて2時間程度。ウォー



洪水対策で昨年3月に整備された隔流堤を歩く会員たち。広々していて気持ちいい～！

キングコースとして最適ではないでしょうか。

秋にも開催

次回は10月20日に開催する予定です。午前10時に前回と同じまちづくりセンターに集合。気候も良いころと思います。皆さんぜひご参加ください。



こんなにゴミがありました

一緒に考えてみませんか

“てんでんこ”は悩ましい問題

「災害に備え障がい者・高齢者を支え合う
ネットワークづくりシンポジウム」から

「津波の時はてんでに逃げろ」。東日本大震災から私たちは“てんでんこ”という避難の原則を学びました。しかし、車

いすの人は地震で壊れた道や階段を走れません。ではどうすればいいのでしょうか……。本会の矢野光孝役員が支部長を務める全国脊髄損傷者連合会宮崎県支部は、3月に延岡市民協働まちづくりセンターで、災害時に障がい者・高齢者を支える仕組みを考えるシンポジウムを開きました。

矢野支部長、同じく畳堤を守る会役員でもある上杉泰洋・元防災推進員、小村周司氏（市危機管理室室長補佐）、平川真悟氏（市社会福祉協議会）の4人がパネラーを務めました。写真右下。コーディネート

ネーターは福田政憲氏（NPO法人延岡市民力市場）。

矢野支部長は、普段は体が不自由なことを周囲に意識させないほど活動的ですが、25歳の時に高所から転落し脊髄を損傷。車いすを利用して

「“てんでんこ”は悩ましい問題」と話しました。「山に向かつて逃げろと言われても、私たちは助けを借りないといけない。でも、大震災では人を助けようとして亡くなった人が大勢いるから……（助けてと言にくい）」と言葉を濁しました。

避難所ではトイレが一番問題になるそうです。「長時間トイレを使い、迷惑をかけてしまう」と話しました。

避難所に関しては、福祉避難所の整備が求められます。

また市は、体の不自由な方を早期に支援できるように「災害時要援護者登録台帳」をつくっています。

しかし緊急時の避難誘導については、仕組みをつ



路もつくる必要があるのでは」と提案するとともに、当事者には「笛や発光するグッズを持って、自分の居場所を知らせてほしい。自分や家族がどんな援助を必要としているか周りに知らせてほしい。必要な時は甘えてほしい」と呼び掛けました。

難しい問題ですが、まずはみんなが、このような問題があることを意識することが大事だと思っています。

また、2月に延岡市消防本部で開かれた知的障がい者対象の防災研修会では、防災士が「最後の命のとりで」として、1人1着ずつ、ライフジャケットを備えておくことを勧めていました。

（文責・奴田原）



北町のモニュメントすっきり

橋の日の清掃活動に10人

橋の日（8月4日）の記念イベントが今年も当日早朝に延岡市の安賀多橋周辺で開かれ、本会からも10人が参加しました。

午前6時の開会に先立ち、本会は5時半に北町の豊堤モニュメントに集合。モニュメント周辺のコンクリートの割れ目に生えている雑草を抜き、ごみを拾い、豊堤の説明板をぞうきんでふ



きました。

6時から安賀多橋の北詰河川敷に移動し、河川

敷の清掃と式典に合流しました。

安賀多橋は昭和20年延岡大空襲の際、橋の下に逃げ込んだ多くの市民の命を救ったことから、

橋に「命の橋」の表示を取り付けようという機運が高まっています。

式典では、そのきっかけとなったエッセーを書いた吉田千鶴子さん（延岡市鶴ヶ丘）が空襲体験を話し、今人気の書道パフォーマンスグループ、植野書道ガールズ（USG16）が「命の橋」と大書しました。

橋の日は、延岡市出身の湯浅利彦さん（宮崎市在住）が水郷延岡の発展

を願って昭和60年に提唱したもので、平成6年に日本記念日協会により認定されました。

余談ですが、午前6時には、城山と今山の両方の鐘の音が聞こえました。ゴーン（城山）、ゴーン（今山）、ゴーン（城山）、ゴーン（今山）……と、まるで申し合わせたように交互に聞こえ、ふだん鐘の音の聞こえない地域に住んでいる筆者は得した気分になりました。来年は皆さんも参加しませんか。

豊堤DVD制作に補助金決定

前回の「空飛ぶ豊」でお知らせしました通り、本会では、豊堤の今を動画で記録し、紹介するDVDを作ろうと計画中です。この企画が、延岡市の「平成24年度 市民まちづくり活動支援事業」に採用され、補助金が受けられることになりました。

同事業は、市内に活動拠点を持つ非営利団体が行う公益性の高い活動を支援す

るというもので、補助額は最高50万円。本会にはその最高額が認められました。

「補助決定通知書」の交付式は6月11日に東本小路の市民協働まちづくりセンターであり、木原会長が受け取りました。

その後、役員を中心として「みんな豊堤DVDを制作しよう会」を立ち上げたところです。

補助金申請書では企画名を「映像による五ヶ瀬川防災コミュニティ啓発促進事業」としました。

五ヶ瀬川の荒れ狂う様子や穏やかな様子の映像を交えながら、豊堤で街を守った先人のユニークな知恵や自分たちの街は自分たちで守った史実を通して、民間主導の防災コミュニティ意識の大切さを伝える内容にしたいと思っています。

DVDは学校やコミュニティセンターなどに提供するとともに、講演会や防災フェスタなどで活用します。また、インターネットで配信することで、地域での防災訓練やイベントなどに参加できない人の啓発にも役立つと考えています。

五ヶ瀬川の豊堤を守る会
事務局 社会福祉法人光紀会ひかり工房内
矢野 光孝

〒882-0063

宮崎県延岡市古川町74番地1

TEL 0982-34-1389

FAX 0982-23-1617